

SCREEN

The Value Creation in Media Mix "EQUIOSNET"



Commercial(CTP)



Document



Commercial(POD)



Wideformat



大日本スクリーンは、ゆるぎない地位を確立したCTPワークフローに、独創のインクジェット技術を駆使したPODソリューションで「パーソナライゼーション」のエッセンスを融合した、新たな印刷ビジネスのソリューション「EQUIOSNET」コンセプトを全世界に提唱し、環境の世紀にふさわしい印刷ビジネスを提案してまいります。

株式会社 メディアテクノロジー ジャパン <http://www.mtjn.co.jp/>
VP営業統轄部 / 〒135-0044 東京都江東区越中島1丁目1-1 ヤマタネ深川1号館1F
TEL: 03-5621-8188 (代)

大日本スクリーン製造株式会社 <http://www.screen.co.jp/>
メディア&プレジジョンテクノロジーカンパニー



フォーム印刷

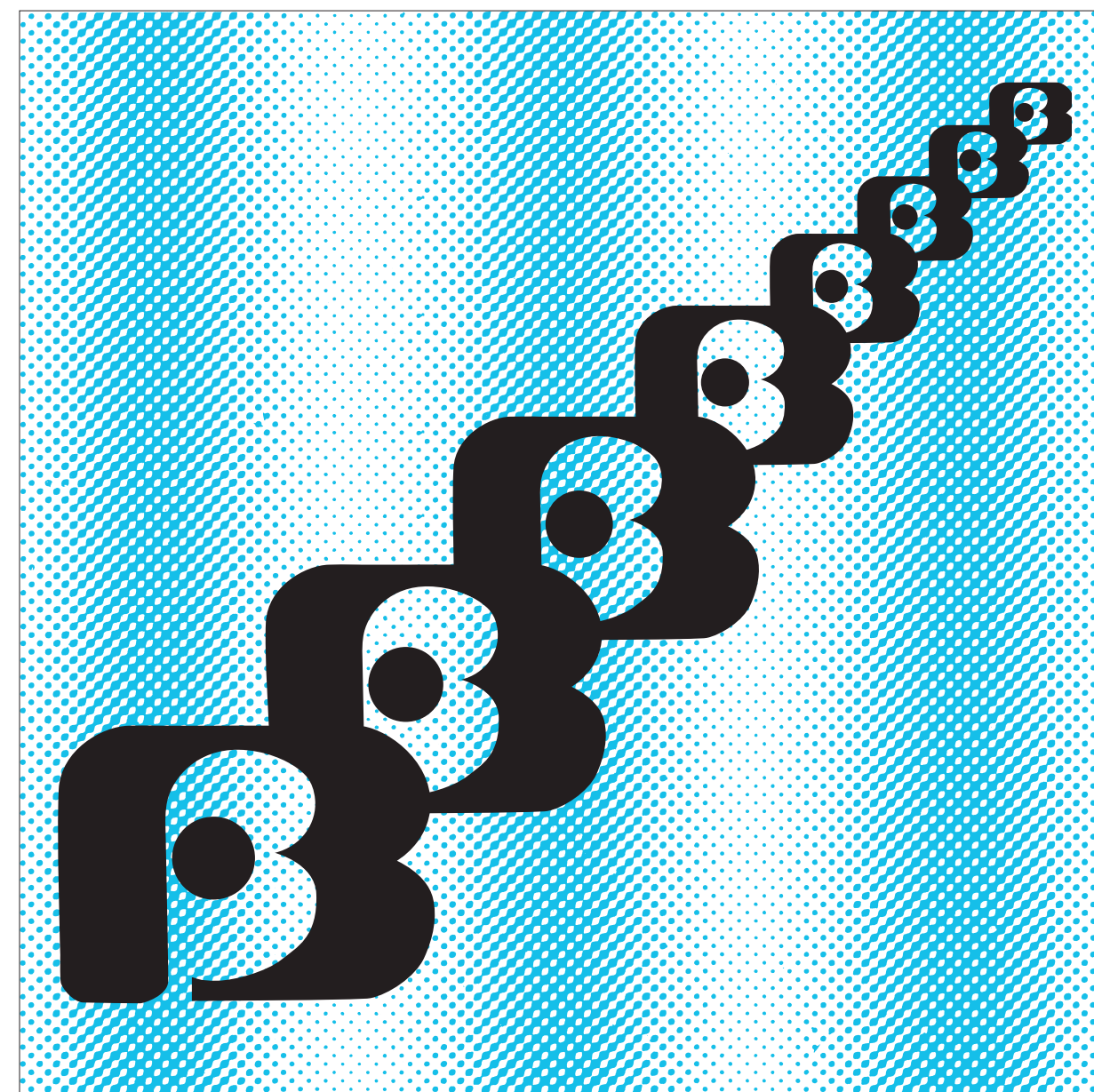


JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ <http://www.jbfa.jp>

NO. **372**

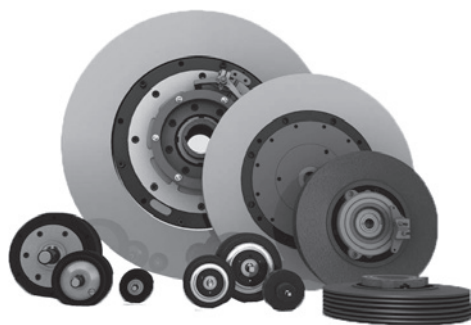


2012 .7

メロベル製（フランス）テンションコントロールシステム

パウダブレーキ・クラッチ・デジタルコントローラー

MEROBEL



パウダブレーキ・クラッチ

- 2ローター+1層エアギャップのシンプルな構造による優れたパウダー安定性
- 優れたパウダー安定性により、スムーズでリニアな初期動作が可能
- 垂直方向軸に適用可能（シャフトなしタイプ）
- 0.2Nm～1000Nm トルクまで、そして5段階の放熱レベルを提供出来る幅広いラインアップ
- 高いコストパフォーマンス

大阪本社 TEL 072-433-7100 / 東京オフィス TEL 03-5798-7805
e-mail: inquiry@bstjapan.com URL: http://bstjapan.com



B フォーム印刷

目次

日本フォーム印刷工業連合会会報 2012.7 No.372

日本フォーム工連	平成24年度通常総会及び理事会を開催	2
日本フォーム工連	平成23年度事業報告並びに平成24年度事業計画	3
日本フォーム工連	平成24年度第1回理事会議事要録	9
日本フォーム工連	平成24年度第2回理事会議事要録	11
トピックス		13

東北フォーム印刷工業会創立40周年記念式典を開催
経営者向けセミナー「印刷業界の展望と勝ち残り戦略」を開催
「drupa 2012・Xplor 2012」報告セミナーを開催
JP情報・印刷産業展へ初出展
グリーンプリンティング工場認定取得奮闘記

工業会だより		19
--------	--	----

関東フォーム印刷工業会 平成24年度通常総会を開催
北海道フォーム印刷工業会 平成24年総会及び懇親会を開催
中部フォーム印刷工業会 平成24年度定期総会と記念講演会を開催
関西フォーム印刷工業会 平成24年度定期総会を開催
大阪支部 4月度・6月度例会を開催
西中国フォーム印刷工業会 平成24年度総会を開催
九州フォーム印刷工業会 平成24年度定期総会を開催

INFORMATION		24
-------------	--	----

国際委員会 北米印刷事情レポート（2012年4月～6月）
新刊書「印刷産業における環境関連法規集（2012年版）」
新刊書「未来を破壊するDisrupting the Future」
— 厳しい印刷市場の進路を示す「新しい常識」—

シール・ラベル用全自動検査装置

KBDチェックマスターSL

チェックマスター シリーズ

全ての不良を検知する、全自動検査装置。



幅狭のシール・ラベル用紙に対応！
ビジネスフォーム用全自動検査装置
KBDチェックマスターBF

廉価版！自動検査装置
KBDチェックマスターライト

特長

- 独自の検査アルゴリズムを使用
- 簡単操作
- 様々な印刷物にも検知対応
- プリントフロー（検査結果と履歴の保存機能）



印刷機材の総合商社
株式会社 光文堂

http://www.kobundo.co.jp

本店／〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052 (331) 4111 (代)
支社／東京 支店／東北・静岡・大阪・北九州・福岡 営業所／北海道・青森・山形
千葉・山梨・沼津・浜松・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄

KOBUNDO

インキ練りローラー自動洗浄装置

KBDローラーグリーンシステム

インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、資源の節約を極める

印刷機の稼働率を大幅アップ



インキカラーコントロールシステム

KBDマイクロカラーマキューリー

シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で使いやすくなって、新機能も追加！

インキカラーコントロールがグッと身近に。



新登場！！

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

FCリスコート H-17 BFシリーズ

- | | |
|----|--|
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御 ☆ 種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい ☆ 耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制 |
|----|--|



富士薬品工業株式会社
FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD
HP URL http://www.fcfuji.co.jp

本社 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10
TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205
大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1
TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221

TOYOINK

東洋インキ株式会社
ECS事業統括部
〒104-8378 東京都中央区京橋2-3-13
Tel : 03-3272-7693

www.toyoink.jp

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ

FD フォームXシリーズ

- 高い硬化性 UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。
- 広い水幅 水を上げてても良好な印刷適正を実現。
- 優れた転移性 着肉を向上し印刷濃度をアップ。
- 紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。

平成24年度通常総会及び理事会を開催

日本フォーム印刷工業連合会は6月12日、目白・椿山荘で「平成24年度通常総会」を開催し、理事38人中33人(委任状10名を含む)が出席した。同日の理事会では任期満了に伴う会長の互選を行い、櫻井醜氏(トッパン・フォームズ社長)を新会長に選出した。

櫻井新会長は就任後のあいさつで「商業印刷やマス広告の経験が長い立場から見ると、フォーム業界が確立している可変印刷の体制は、個人へ情報や広告を発信できる大きな力を持っている」と所感を述べ、「今後は景気変動にかかわらず、いっそう個の時代となる。新技術が受け入れられる可能性も多く、共に業界を拡大発展させていきたい」と抱負を語った。

総会では、「平成23年度事業報告ならびに収支決算報告承認の件」(第1号議案)、「平成24年度事業計画案並びに収支予算案承認の件」(第2号議案)、「任期満了に伴う役員改選の件」(第3号議案)を審議し、いずれも賛成多数で可決・承認された。本年度の事業では、理事会および業務・資材・国際など7委員会の活動のほか、(社)日本印刷産業連合会での活動を推進し、印刷産業全般にわたる課題解決に取り組む。

- 総会議案
- 第1号議案 平成23年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
 - 第2号議案 平成24年度事業計画案並びに収支予算案承認の件
 - 第3号議案 任期満了に伴う役員改選の件

- 理事会議案
- 第1号議案 会長選任の件
 - 第2号議案 副会長、専務理事、常任理事指名の件
 - 第3号議案 委員会委員委嘱の件

■出席者 28名

会 長	小谷 達雄			
副 会 長	櫻井 醜	瀬戸 良教		
常任理事	小谷 正嘉	中村 伸治	神埼 徳三	玉田 健治
	越智 章(大久保常任理事)代理	福田 学		佐藤 泰光
	佐久間信幸	杉山 悟	小島 保紀	和田秀一郎
	林 陽一	佐々木 慎一		
理 事	福武 正廣	石坂 満	坊野 喜彦	溝口 剛司
監 事	吉澤 啓	谷島 健治(西川監事)代理		
理事候補	池田 正雄	土屋 昇	太田 真義	北原 真二
	寺山 英夫			
専務理事	山口 実			

総会終了後には同会主催の記念講演会も開かれ、(株)船井総合研究所の経営コンサルタント・山田公一氏が登壇されて、「成果が出ない時にも活動を継続して達成につなげるには、働く人が常に成長を実感できる仕組み作りが必要」と説いた。



総会の風景



記念講演会の風景

平成23年度事業報告並びに平成24年度事業計画

平成23年度事業報告

◆常設委員会活動

小谷達雄会長のもと、平成23年度の事業計画に基づいて活動を行ってきたが、昨年発生した東日本大震災の影響による経済の低迷が続いたこと、並びに福島第一原発の事故、さらに電力需給問題による計画停電や諸資材の供給不足など、未曾有の状況に見舞われ、忘れることができない年度となった。

◆業務委員会

- 平成23年度事業報告書、決算報告書、平成24年度事業計画(案)、収支予算(案)を作成し、理事会の審議を経て平成24年度通常総会に上程、承認を受けました。毎月の収支については、月次計算書を作成、理事会に報告し承認を得ました。
- 定期総会の記念講演会として6月16日「知的障害者に導かれた企業経営と私の人生」と題して、大山泰弘氏(日本理化学工業(株)代表取締役会長)を講師に迎えて講演が行なわれた。従業員の8割近くが知的障害者で、そのうち約半分の社員が重度の障害を

持つという障害者雇用の理念と、会社が人を育てるのではなく、人が会社を育てる、という企業経営のあり方を話された。

- 印刷出版研究所との共催で8月3日に「BCP(事業継続計画)特別セミナー」を開催。テーマは「社員と会社を本気で守る」～BCPこそ企業価値向上のカギ～。印刷業界にとってのBCPと業界内における事例紹介のほか、福島市で実際に震災被害に遭った日進堂印刷所の佐久間信幸社長(東北フォーム印刷工業会会長)が事前に策定していた緊急時対策が、震災時にどのように機能したのかを報告。さらに、BCPの第一人者であり関東の役員研修会でも講演頂いた、眞崎リスクマネジメントの眞崎達二郎代表がBCPの基礎から、中小企業がBCP策定時に持つべき視点などを解説した。
- 8月25日に、椿山荘にて夏季懇親会に併せて、早稲田大学大学院教授の友成真一氏を講師に迎え、「自分経営」をタイトルに講演会を開催した。他人の世界を受け入れることで自分の世界が広がる発想の転換を「タ

- コ論理」で説明。人は誰でも国家や企業、制度といった組織的な〈タコつぼ〉や、学歴、職歴、肩書、資格といった個人的な〈タコつぼ〉の中にいる。この方向の思考の先には分断、差別、衝突が見える。一方、〈タコつぼ〉から抜け出した姿が〈素タコ〉、幸せ、心、悟りというミクロ的な視点。「すべての人のために」というマクロ視点の既成概念の罫から抜け出し、「この人のために」とミクロで物事を突き詰める発想の転換こそが、知恵の源泉であり、真実であり、そこに創造性がある、と講演された。
- 平成24年新春講演会が1月26日、文京区の椿山荘で開かれ、「ドリーム工房☆はせがわ」の、はせがわいさお氏、はせがわ芳見氏、はせがわ祐希氏、(株)芸術造形研究所社長の西田清子氏が講演した。「スターリイマンの9つの風船」を演題に講演した、はせがわいさお氏は福島県出身の画家。星を象ったスターリイマンというキャラクターを主人公にした作品を描いており、芳見夫人が話を創作、愛娘の祐希さんが朗読する創作発信活動が続けている。今年度東北フォーム印刷工業会が制作した「被災地ふくしまのペットを救おう」卓上カレンダーにも絵を提供した。講演会ではスターリイマンの誕生秘話や東日本大震災の被災地での紙芝居活動などを紹介。日本で珍しいストリートオルガンの演奏に合わせて、はせがわファミリーによる紙芝居を披露した。芸術造形研究所の西田清子氏は、「芸術は人の心を癒す」をテーマに臨床美術「アートセラピー」を紹介した。絵を描く行動で脳細胞を活性化させるもので、認知症の症状改善の他、現在では企業のメンタルヘルスや教育・福祉教育の分野でも採用され始めている。講演会では同社が開発したオイルパステルを使って絵葉書を描くワークショップ

プが行われ、参加者が思う色を組み合わせで創作した。

- 会報「フォーム印刷」367号～370号を発行。また、毎月ホームページを更新し、フォーム工連の活動内容および関連情報を広報した。

■資材委員会

- 用紙需給状況、景気指標、製紙産業景況感調査等を調査し毎理事会へ報告すると共に、会報、ホームページ等を通じ会員へ周知した。
- 印刷インキ、段ボール原紙等の印刷資材についても需給動向を毎月理事会で報告した。
- 施設見学会については製紙メーカーや資材メーカー等の震災による影響から平成23年度の実施は控えた。

■国際委員会

- 米国B F 関連情報の米国レポートを作成し毎理事会に報告した。
- 山東省済南で開催された「中国ビジネスフォーム印刷分会」第十一年次年会（5月30日～31日）に専務理事の山口が参加した。「中国ビジネスフォーム印刷分会」は中国印刷技術協会に所属し、事務所を上海に構え約300社が加盟。今回の年会には約600名の参加応募があり、昨年度の事業報告と今年度事業施策や講演が2日間行なわれ、約500名が参加された。「BF印刷の持続的発展」をテーマに加盟各社から発表があり、日本からも専務理事の山口が「日本の現状と展望」について報告した。中国のBF印刷業界も伝票の電子化や、インターネットの急速な普及を受け、2006～2007年以降は成長が減速し、マイナス成長の企業も生まれてきている。そこで、BF業界の継続的な発展のための施策について、様々な取り組みを加盟各社が報告した。

- 平成24年5月3日より14日間デュッセルドルフで開催される印刷展示会の“drupa 2012”に参加するため、印刷情報出版研究所と共同で、5月9日～17日まで9日間の視察ツアーを企画。ツアーに同行するコーディネーターは、技術セミナーの講師もして頂いたライター・レイターの山下潤一郎氏。今回の視察ツアーでは“drupa 2012”会場視察に加えて、デンマーク、イギリス、オランダの各国を訪問し、企業視察を実施する計画。フォーム工連会員各社からは13名、共同開催全体では28名が参加。視察報告セミナーは6月27日午後に開催を予定している。

■市場調査委員会

- 業界紙にも取上げられ、内容の充実した資料となっている「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査」の平成24年度版を発行すべく、全会員に対してアンケートを実施し、前年よりも良い回答率で、平成24年1月に発行した。今回の調査では、事業全体の売上高がほとんど変わらない企業が2/3を超え、10～20%減少した企業も1/4を占め、フォーム業界全体に停滞感が漂う結果となった。商品群別でも主力商品であるフォーム印刷や商業印刷等の売上高は、事業全体と同じ傾向を示しているが、ソフト開発やコンテンツ制作などの分野を手掛ける企業で、売上高を減少した会社はなかった。「その他」の分野を手掛ける企業では、売上高が減少した企業があるものの、売上を10～20%増加した企業も1割以上もある事も浮かび上がっている。これはBOPサービスや電子媒体、あるいはこれまでの事業分野に属さない新しい事業が含まれると思われる。

■技術委員会

- 無料ARライセンスブラウザーのJUNAIO (metaio社製品) ワークショップは、東日本大震災の影響で中止し延期していたが、参加申込者の強い要望により、5月25日にサイバネットシステム(株)と共同で開催した。このワークショップには会員の他、モバイルのソフト開発の企業も加わり、会場満席の40名以上が参加された。JUNAIOについての概要と海外事例の紹介、そして技術について説明した。受講された各社では様々な検討が行なわれており、印刷とインターネットを結ぶ重要なアイテムとして、AR(拡張現実)への取組みが本格化しており、タイムリーな企画であった。
- 市販の家庭用インクジェットプリンターを高耐久化し、業務用プリンターとしてPrint On Demandビジネスに使用している(株)プランの見学会を9月1日に、会員約40名が参加して実施した。通常 業務用オンデマンドプリンターは設備自体が高額な上、耐久年数、感光ドラムやインク代、償却コストなど、中小企業には大きな負担となっている。そこで、安価な家庭用プリンターに耐久性を持たせ、プリント障害のインクの目詰まりを防止、低コストの輸入インクを採用し、業務用レベルの印刷を実現させた。初期投資を低く抑えた金額でPrint On Demand設備が導入でき、「安価で適正なサービスを提供できる」まったく新しいOn Demandビジネスのモデルになる事が期待できる。
- 11月1日「IGAS 2011から学ぶ」と題して、技術セミナーを日本印刷会館会議室で開催した。基調講演とパネルディスカッションでは「IGAS出展における技術動向とフォーム業界の将来展望について展開」、基調講演では、ライター・レイターの山下

- 潤一郎氏が米国業界誌の『Disrupting the Future』を引用しながら、印刷業界の延長線上には未来はなく、業界の常識を超えて「印刷会社は顧客企業のコミュニケーションロジスティックスのハブ」を目指すべきと提言された。また、パネルディスカッションでは、技術委員を中心とした4名のパネラーが「IGAS2011レポート」を発表した。ディスカッションでは、講師の山下氏も加わり「IGAS2011から学ぶ」べきことと、今後のフォーム業界の将来展望について、専務理事の山口がモデレーターになって討議した。
- ・関西フォーム印刷工業会が平成24年2月16日に大阪で企画された「これからのBFを考える」と題した放談会の基調講演で、「劇的に変化するBF市場の動向」について、ここ20年間の市場規模の変遷、デジタル技術を使ったビジネスモデル、データプリントの付加価値サービスなど、具体的な事例や指標を示しながら説明。さらに、日本におけるメディア状況、米国市場の現状、そこにおける新しいビジネスモデルの紹介などを明らかにした上で、「今や、業態変革の段階ではなく、新しいビジネスを立ち上げるという起業の段階に来ている」と専務理事の山口が講演。このあとの「放談会」では溝口支部長、元技術委員の土井氏がディスカッションを行ない、AR（仮想現実）技術を使ったビジネス展開や、最新のデジタル印刷技術、人材育成、BF製品の動向など、幅広いテーマで意見交換を行なった。
 - ・「印刷産業におけるクラウド化の影響は」をテーマに、3月27日に(株)クラウドジャンの佐藤敏郎氏を講師に迎えてセミナーを開催した。総務省も行政コストの大幅削減や、業務の標準化と電子化の早期立ち上げのために、自治体クラウドによるIT化の

推進を行っており、フォーム業界にとって大きな影響があると予測される。そして、このクラウド社会において、印刷業界をはじめ、さまざまな業界でパラダイムシフトが起こり、既存のビジネスにこだわることなく、チャンスとして環境対応業としてビジネスを変えていく必要があり、自社が何業を定義とするかを見極める時期にきている、と講演した。

■環境委員会

- ・グリーンプリンティング認定工場取得の会員を増やすための活動を中心に実施。
- ・第10回印刷産業環境優良工場表彰について、会員企業へ応募促進の働きかけを行なった。日印産連全体では53工場が応募され、日本フォーム工連からは2工場(トッパン・フォームズ(株)、東洋紙業(株))が応募された。結果、19工場が受賞され、トッパン・フォームズ(株)福生工場が「経済産業省商務情報局長賞」を受賞した。
- ・日本印刷産業連合会としての取り組みである「地球温暖化対策の自主行動計画」及び「循環型社会形成の自主行動計画」へ積極的に参画した。
- ・環境負荷低減のために、各社で行なっている節電施策をまとめ、理事会にて報告を行ない、各会員への情報提供をする。

■総会、理事会

平成23年度は、通常総会1回、理事会9回を開催し、重要事項の報告、審議・決定を行い、概要を会報、ホームページ等を通じ随時会員へ報告。

1. 平成23年度通常総会

平成23年6月16日、目白椿山荘「マーズ」において通常総会を開催し、小谷達雄会長が議長となり、以下の議案を審議し原案通り承認

されました。

- ・第1号議案 平成22年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
 - ・第2号議案 平成23年度事業計画案並びに収支予算案承認の件
 - ・第3号議案 役員の一部改選の件
- 通常総会に引き続き開催した理事会において、小谷達雄会長が議長となり、以下の議案を審議、原案通り承認されました。

- ・第1号議案 常任理事の選任に関する件
- ・第2号議案 委員会委員の委嘱に関する件

2. 理事会

平成23年度は9回の理事会を開催し、事業計画に基づいた委員会活動、日本印刷産業連

合会事業活動、各地区工業会事業活動報告を受け、業界課題の共通認識を図り、重要事項について審議・決定しました。

- ・第1回 平成23年4月14日 日本印刷会館
- ・第2回 平成23年5月12日 日本印刷会館
- ・第3回 平成23年6月16日 椿山荘
- ・第4回 平成23年7月14日 日本印刷会館
- ・第5回 平成23年9月20日 ホテルニューオータニ
- ・第6回 平成23年10月13日 ANAクラウンプラザホテル金沢
- ・第7回 平成23年11月10日 日本印刷会館
- ・第8回 平成24年1月26日 椿山荘
- ・第9回 平成24年3月8日 日本印刷会館

平成24年度日本フォーム印刷工業連合会事業計画

業界基盤の整備と体質強化を図り、広く印刷産業全般の総合的発展を図るため、平成24年度は以下の項目を重点的に推進します。

1. 日印産連事業活動へ積極的に参画する

- ・主要構成員として、日印産連事業活動へ積極的に参画し、企業の社会的責任と印刷産業全般に亘る課題の解決に取り組み、理事会、広報を通じ会員への周知と啓蒙を行います。
- ・日印産連が主催するセミナー、報告会他各種行事への参加を積極的に進め、知識の共有と交流を図ります。

2. 委員会活動による課題の討議と諸施策を実施する

①業務委員会

- ・地区工業会との交流を深め、会員増強、工業会活動活性化の具体策を検討、実施します。
- ・東北フォーム印刷工業会所属の各会員

に対する継続的な支援。関西地区で開催される「JP2012情報・印刷産業展」への初出展支援を行なって参ります。

—企業経営に関する講演会・セミナーを最低年4回実施

—地区工業会と協議して講演会及びセミナーを各地区でも開催

- ・日印産連加盟団体との交流を行ないます。
- 懇親会及び講演会への招待、及び交流会を実施

・広報活動の充実を図ります。

—タイムリーなホームページ広報の実施
—会報「フォーム印刷」定期発行(4回/年)

—“PAGE2013”への出展(2013年2月予定)

・独禁法遵守と啓蒙の為の諸施策を推進

します。

—各委員会施策や活動についての適法性の確認等、団体活動における法令遵守を啓蒙

—経済調査会等の印刷価格調査について協力

・業界の重要課題を各委員会と連携して抽出し、工連運営会議での迅速な方向付けを図ります。

②資材委員会

・用紙事情調査を継続実施し、理事会等を通じ資材動向を周知します。

・会員会社社員の資材知識向上のため工場見学・セミナーの企画をします。

—インキ及び補助材等に関する勉強会やセミナーを開催

—用紙需要動向等について

③国際委員会

・海外フォーム印刷事情を調査、分析し、理事会報告を通じ会員へ周知します。

—米国レポートの継続

—各種海外情報の広報(会報及び、ホームページにて情報発信)

・海外企業、団体との交流を図ります。

—中国BF印刷分会との継続的交流

—米国情報誌What They Think関係事務局との交流

④市場調査委員会

・市場動向を調査分析し、調査報告書等を通じ会員への事業指針を提示します。

—アンケート調査を実施

—調査結果の分析と報告書の作成

—市場における業界共通課題抽出

・市場に対して積極的な活動が行なえる情報提供を行なう。

—マーケティングについての勉強会及びセミナーの開催

・契約及び販売価格の適正化について検

討を行ない推進します。

—経済調査会等印刷価格調査に協力

—独禁法遵守と啓蒙の為の諸施策の推進

⑤技術委員会

・技術面から見た業界の進む方向を協議し、必要テーマについてセミナー、見学会等を企画実施します。

—主催及び共催セミナーを実施

—業態変革に関わる技術に対してタイムリーな時にタイムリーな内容のセミナーを実施

・エネルギー削減分野に着目し、電力削減機器や新技術情報の共有化を進めます。

⑥環境委員会

・GP工場認定、第三者認証制度の普及啓蒙と認定・認証の取得しやすい環境作り、情報提供を通じ取得支援を行います。

—認証取得支援情報の提供

・環境優良工場表彰申請への参加促進。

—技術的及び申請に関する支援の実施

・印刷産業全体で進めるCO₂削減活動、廃棄物削減活動(地球温暖化対策・循環型社会形成の自主行動計画)を推進します。

—日印産連自主行動計画への参加

—CO₂の削減、廃棄物削減の実態把握と情報共有

⑦理事会

・業界及び工連運営に関わる重要事項を協議決定する理事会を定期開催し、会報及びホームページ等を通じ会員に周知します。

・業界の発展、社会貢献の方向性を探る政治経済動向、社会的責任課題等につ

いての理事研修会を実施します。

日本フォーム印刷工業連合会 平成24年度 第1回理事会議事録

■平成24年4月12日(木) 午後1時30分 日本印刷会館2階 201会議室

■出席者(20名)

小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷(正)常任理事、中村常任理事、神崎常任理事、玉田常任理事、越智(大久保常任理事)代理、杉山常任理事、清水常任理事、和田常任理事、林常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、滝本理事、西川監事、吉澤監事、山口(専務理事事務局)

議 題 (1)委員会報告

(2)日本印刷産業連合会等関連報告

(3)各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 冒頭、小谷会長の開会挨拶があり議事に入った。

「小谷会長挨拶骨子」

今年は珍しく入学時期に桜が満開で、学校も会社も新入生、新入社員が入り、フォーム工連も6月の総会で役員の改選や、委員会メンバーの変更が行なわれる予定です。

新年度の役員体制ですが、会長には現副会長の櫻井さんに、私は再び副会長としてサポートをさせて頂き、瀬戸副会長には留任をお願いする予定でおります。それまで今日の第1回理事会と次回の第2回理事会までは、旧役員体制での議事を行ないます。

委員会報告

●資材委員会

・4月度用紙事情について報告

●業務委員会

・3月度月次計算報告

・平成23年度決算(案)について報告

・関西JP情報・印刷産業展への出展計画を発表

●国際委員会

・2月度米国レポートの報告

・“drupa 2012”ツアー行程及び訪問企業の紹介

・Disrupting the Future(未来を破壊する)翻訳について報告

●市場調査委員会

・(株)矢野経済研究所・日本M&Aセンター共催セミナーについて報告

●技術委員会

・印刷産業に於けるクラウド化について報告

●環境委員会

・環境委員会4月度活動の報告



- (2) 平成24年経済産業省企業活動基本調査報告
- (3) 安信簡情報環境シンポジウム内容の報告
- (4) 「マクドナルドの経営革新」記念講演まとめ(原田会長)
- (5) 日本経済新聞「起業の軌跡」掲載記事(ナビット福井泰代)
- (6) 経営者のためのM&Aセミナー(日本M&Aセンター)

各フォーム印刷工業会からの報告

・関東フォーム印刷工業会報告(瀬戸会長)

来週の5月24日は平成24年度の関東の通常総会になるが、常任理事や役員など大幅な変更はない。関東の支部活動は昨年より少しは動きが出ているが、まだ活発な活動までには至っていないので、今年度はさらに関東の会員の皆さんと一緒にやって行きたい。

北海道フォーム印刷工業会報告(佐藤会長)

4月26日に会員企業の26社が集まって平成24年度の総会を開催した。

北海道は最後まで原子力発電所が動いていたので節電意識が乏しい。北海道は関西と同様に原発依存率が44%と高く、地域性から産業用電力と冷房電力の需要がもともと少ないので、節電余力が乏しい特徴を持っている。

政府からは削減目標を7%と定められているのが、様々な努力で電力削減をされた関東の皆さんのノウハウをぜひ教えて頂きたい。

東北フォーム印刷工業会報告(佐久間会長)

すでに、皆さんにお知らせ致した、6月6日の東北創立40周年記念式典の準備に追われているが、皆さまのご参加をお待ちしている。5月29日には東北地区で毎年行なっている工場見学会として、山形県新庄市にある(株)エ

ッサムを訪問する予定である。

中部フォーム印刷工業会報告(三枝会長代理)

5月25日に平成24年度定期総会を実施する。昨年は懇親会を行なわなかったが、今年は例年通り、講演会と懇親会も併せて行なう。講演会では静岡大学の名誉教授の小和田先生をお招きして、「信長・秀吉・家康に学ぶ経営戦略」をテーマに講演を頂く。

関西フォーム印刷工業会報告(清水会長)

関西の会長としての理事会への出席は今日が最後になり、次回からは溝口会長が出席する。関西の総会は5月24日に堂島ホテルで開催し、昨年は中止した講演会と懇親会を例年通りに開催する。講演会には柿原まゆみ先生をお招きして「好感度UP講座」をテーマにして講演を頂く。また、6月13日から3日間大阪で開催されるJP展には関西会員の方々も始めて出展する。

最後に瀬戸副会長より閉会挨拶があった。
「瀬戸副会長挨拶骨子」

今日は旧体制としての最後の理事会になりますが、次回からは新しい体制での理事会が開催されます。印刷産業は明るい話題が一向になく、会員の減少傾向が止まらない。さらに仕事の環境も変化している。

このような状況にはあるが、皆さんの知恵と協力で活性ある理事会運営を致していきたいと思う。

今回の平成24年度通常総会・第3回理事会

開催日 平成24年6月12日(火)

時 間 午後2時15分より

場 所 目白・椿山荘「マーズ」(タワー棟4階)

を確認して閉会となった。

トピックス

東北フォーム印刷工業会

創立40周年記念式典を開催

東北フォーム印刷工業会(佐久間信幸会長)は、6月6日、宮城県仙台市のウェスティンホテル仙台で40周年記念大会を開催した。当日は、74名の参加者が集い、これまでの道のりを振り返るとともに、参加者同士で様々な意見を交わした。

記念式典は、大門副会長の復興支援と参加の方々に対する感謝の言葉で開会。会長挨拶では、佐久間会長から、未曾有の大震災に見舞われ多くの会員が、企業存続の危機に直面した昨年を振り返りながら、「そこから復旧できたのは、会を通しての絆による助け合いと全国からの温かいご支援のおかげ」との感謝の言葉があった。また、復旧はしたもの、印刷業界の市場の落ち込みや、フォーム印刷に求められるレベルや質の変化についても触れ、「これからの会の役割や会員同士の絆がとて大切になる」と、今後の考えを示した。

来賓には、東北経済産業局産業部長の菅原正昭氏、日本フォーム印刷工業連合会常任理事・業務委員会委員長の小谷正嘉氏、同じく専務理事の山



挨拶する
佐久間会長

口実氏、東北地区印刷協議会会長の藤井治夫氏を招いた。菅原氏からは、「復興のために予算を確保している。復興を支えていきたい」との言葉をいただき、続いて小谷氏からは、「この40年は変革の40年だった。業界も変わりつつある。これからさらに力を合わせてがんばっていきたい」との言葉をいただいた。最後に藤井氏からは、経済変動に左右され続けてきた業界の歴史を振り返りながら、「今後は自社の強み、弱みをみつけることが大切。前向きに進んでいく」との言葉をいただいた。

来賓挨拶に続き、創立40周年に渡る歴史の中で、17年もの長きに亘り会長を務め、会の活動・振興に対し大きな貢献を果たしたとして、前会長の笹氣幸緒氏に佐久間会長から功労賞が贈られ、あわせて記念品の贈呈が行われた。笹氣氏は壇上で、規約の見直しに携わったことや、勉強会も積極的に開催したことなど、自身の会長としての活動の歴史を振り返るとともに、今まで様々なことを乗り越えることができたのは、仲間の絆あってこそだった」と挨拶した。

その後、厳しい情勢の中、東北フォーム印刷工業会を支えてきた会員16社と、特別会員10社に対し、佐久間会長から感謝状が手渡された。

最後に、被災地である福島市の会員、佐々木健一理事の「依然厳しい状況だが、前向きに頑張る」との言葉で閉会した。

記念講演会では、講演に先立ち佐久間会長から、講師で福島県会津若松市出身の画家のはせがわい



上 記念式典来賓の方々 下 記念式典の風景

さお氏から作品を、無償提供のお申し出をいただいたことが縁で、「スターリイマン卓上カレンダー12ヶ月の贈り物」を制作し販売させていただいたこと、販売した金額の一部を福島県動物救護本部に寄付し、震災復興に役立てていただいたことなどが紹介された。スターリイマンとは、はせがわ氏の創作によるもので、「星のように輝く人」という意味を持つ星形の顔をしたキャラクターのこと。夢を叶える9つの風船を世界中に届けている。

はせがわ氏は、芳美夫人と愛娘の祐希さんとともにご家族3人で、「コミュニケーションアートに願いを込めて～輝く未来をつなぐスターリイマンの夢を叶える9つの風船～」と題し、家族の絆のことやコミュニケーションアートができるまでの経緯、アートによる被災地支援などについて講演された。

講演では、東日本大震災で被災した子ども達に、紙芝居ライブとともに紙芝居を贈る「スターリイマン紙芝居プロジェクト」を展開していることや、紙芝居の活動で訪れた被災地で出会った自然や地域の皆様との交流から得た感動を、2013年3月までに9作品描く活動についても話された。その他、



左から芳美夫人、愛娘の祐希さん、はせがわいさお氏

祐希さんの朗読による「紙芝居」実演など、多彩な内容に参加者は聞き入っていた。

懇親会には、73名が参加した。今回の式典委員長である佐藤嘉昭理事の開会の言葉に続き、来賓の日本フォーム印刷工業連合会の山口実氏による乾杯の音頭で、宴が始まった。

各県の自慢の地酒を持ち寄って繰り広げられた「東北6県地酒紹介」では、震災で壊滅的な被害を受けた蔵元が、なんとか出荷再開にこぎつけたものなど、6県の合計11の酒とその物語が、それぞれ各県の代表者から語られ、場内も沸いていた。

その後、本田恵美子さんから4名による津軽三味線の演奏が披露された。本田さんは、全国大会でも数々の受賞歴を誇る名奏者。普段はなかなか聴けない近距離での迫力ある津軽三味線に、全員時間が経つのを忘れて聴き入っていた。

最後に、大工和弘理事の万歳三唱に続き、山田政彦理事の感謝の言葉で閉会した。

翌7日は、仙台市近郊の利府ゴルフ倶楽部で、16名が参加しゴルフコンペが行なわれ、会の絆と親睦を深めた。



懇親会の風景

経営者向けセミナー 「印刷業界の展望と勝ち残り戦略」を開催

(株)日本M & Aセンターと(株)矢野経済研究所の協力により、4月10日に日本M & A東京本社セミナールームで「印刷業界の展望と勝ち残り戦略」と題して、経営者に向けたセミナーを開催。後継

者問題や先の見えない経営の悩みを解決し、勝ち残り有効な手段としてM & Aがあることを紹介した。

セミナー第1部では、矢野経済研究所生活産業事業部の石部知之氏が「デジタル印刷市場の実態

と展望をテーマに、デジタル印刷市場は従来の印刷ビジネスの延長ではなく、顧客が直面する問題解決を実現するソリューションサービスであり、デジタル印刷の活用が従来の印刷ビジネスから脱却する1つのヒントとなる」と講演。

第2部では、日本M & Aセンター企業情報部で印刷関連業界のM & Aを手掛けている青木裕氏が「M & Aを活用した勝ち残り戦略と成長戦略」について講演。成功のポイントは客観的に自社を見ること、そして、相手の立場で考えることの

2点である」と話した。特別講演では、後継者不在のためM & Aで法人譲渡した経験を持つ(株)ニッケイ印刷前社長の原田俊美氏が体験を語った。



技術委員会・国際委員会

「drupa2012・Xplor2012」報告セミナーを開催

技術委員会と国際委員会との共催で、6月27日午後3時より日本印刷会館で約140名が参加して、「drupa 2012・Xplor 2012」報告セミナーを開催した。

第1部では日本ではあまり紹介される機会のない「Xplor International Conference 2012」が本年3月にフロリダ州タンパで開催され、日本印刷産業連合会国際業務部部長の石橋邦夫氏が参加されたので報告を頂いた。

XplorはXerox Printer Liaison Organizationの頭文字を取り1980年に設立され、ドキュメントプロセシングのユーザとベンダーによって構成されたNPO法人で、メンバーは35カ国に及ぶ。

<http://www.xplor.org/>

活動目的としては、ドキュメントプロセシング関連技術やマーケティングの教育、ネットワーク作りの機会提供、フォーラムの開催などが挙げられ、2006年から教育プログラムとしてXplor Document Universityを設立している。

参加したカンファレンスでは、「ADF (Automated Document Factory)」という考え方が普及しており、その関連のシス

テムベンダーも多数ある。ADFシステムの導入はデータプリントを行う印刷会社以外に、金融・保険・通信会社などでの社内システムとしても使われている。これらの企業ではデータプリントを内製化しているところもあるが、全体の70%はデータプリントサービス会社にアウトソースしている。そして仕事の流れは、顧客にとってプリントは必ずしも必要ではなく、より効果的なもの、コスト低減ができるものに移行し、web、SMS、Appなどが出てきているほか、米国での郵便料金の高騰から、デジタルメールボックスへの関心が一気に高まっている」と報告。

最後に「drupa2012」視察で訪れたノルウェー印刷企業 07 Group社(年商5,800万ユーロ、従業員300



名の規模で、北欧では規模の大きい印刷会社)を紹介。10年前までは95%が印刷の仕事であったが、業態変革で印刷以外が58%になっている。印刷を提供する会社から、“印刷も”提供する会社への変身。ウェブやデザイン部門はそれぞれ文化が異なるので、内部で育てることをせずに、あえて外部の企業を買収し、それを別組織として独立に運営した。今までM&Aをした会社はデザイン、ウェブ、印刷、広告代理店など15社に及ぶ。価格での勝負ではなく、顧客とのコミュニケーション全体をサポートできる体制を構築し、価格以外の面での強みを出している。顧客の要望を満たすために、自社で対応できないものは、パートナーを選定して提携を行っている。

「当初は印刷会社とみなされ、顧客とのコミュニケーション全体を任せるような仕事はなかなか取れなかったが、実績を積み重ねて、現在では政府機関なども顧客となっている」と同社のHavard Grjothim社長との対談内容を紹介した。

第2部では、日本フォーム印刷工業連合会も協賛した印刷出版研究所主催の“drupa 2012”視察ツアーのガイド役も行ったブライター・レイターの山下潤一郎氏から「デジタルをメインストリームに」と題した“drupa 2012”視察報告と、この視察ツアーに参加した代表の中からトッパン・フォームズ(株)IT開発本部開発部第1グループ主任の山本匠造氏と、(株)イセトールソリューション事業本部部長の大塚啓史氏が企業視察を中心に報告した。

この「デジタルをメインストリーム」にすることが可能になった要因は、様々なデジタル印刷機の開発の進展、バリアブル・小ロット対応後加工機の登場、導入・活用が容易なソフトウェア・Webサービスの拡充、デジタル印刷成功ノウハウの蓄積等を上げている。

注目のLandaインクジェット機の魅力と課題、多くの企業から出展されたB2サイズ枚葉インクジェット及び液体トナーによるデジタル印刷機、そして連続紙用デジタル印刷機、Oce社、Delphax社、東芝TEC社のプリンターで採用された注目のヘ

ッドMemjetの紹介。

デジタル印刷対応後加工機として、製本・新聞折加工向け機器をはじめ、Hunkeler社及びホリゾン社、ミューラー・マルティニ社などが、加工設備を紹介した。

ソフトウェア/Webサービスとしては「クラウド×タブレット」というプラットフォームを活用したWeb-to-printなどの印刷サービスの構築や提案がなされた。

「これらの設備やソフトを使用し、印刷サービスの魅力を伝える・高めるマーケティング活動を強化するため、顧客と印刷企業の双方にとって魅力的なサービス提供の仕組みを、顧客やパートナーと一緒に取り組むことが重要である」と講師の山下氏は結んだ。

企業訪問報告として、書籍印刷のヨーロッパ最大手で、欧州で17工場を保有し、デジタル印刷化を積極的に推進しているC P I社オランダ工場を紹介。ヨーロッパも景気が悪く、外的要因による業績上昇の見込みもないために生産の合理化を検討し、5セットのHP Inkjet Web Pressを導入・稼働し、デジタル化に踏み切った。

デンマークのコペンハーゲン郊外にあるニュー・エラパブリケーションズ社を訪問。同社は故L.ロン・ハバード氏の著作のみを専門に扱う出版社で、36言語に翻訳された書籍の印刷・仕上げ・製本・発送を行ない、印刷はデジタル機のみを使用して月間500万ページをプリントし、世界へ書籍を出荷している。

主に銀行・通信の請求書・明細書のプリント・封入封緘・発送業務を行なっている英国のRR DONNELLEY社イギリス工場を訪問。Info Print4100、Info Print5000を主力プリンターとし、ジョブ管理システムとしてInfo Print Workflowを使用しプリント出力業務を行なっている。封入封緘業務はPB社のM P S (Mailstream Productivity Series)が導入され、同社が提供するファイルベースで、封入封緘時のジャム等によるプリントデータを再作成する仕組みとも連携した運用を行なっている。

以上、特徴のある3社の訪問先を報告した。

日本フォーム印刷工業連合会

JP情報・印刷産業展へ初出展

「JP2012情報・印刷産業展」が6月14日から、インテックス大阪を会場に開幕し、機材トレーディングを軸とした地方機材展から脱却し、印刷需要の掘り起こしに焦点をあて、印刷業界外の関連技術メーカーや研究団体の参加を呼び掛け、デジタル時代の「情報媒体・印刷」のあり方を、各種のアプリケーションを通じて問い直す、オープンイノベーションポイントとしての出展に力点を置いた。

今回の「JP2012情報・印刷産業展」は、昨年を上回る76社が参加し、216小間に、デジタル印刷機関連を始め、電子書籍、電子ブック、拡張現実アプリ(AR)、先端ワークフローや、小ロット印刷物に付加価値を付け、さらなる合理化を促す後工程機器、環境ソリューション、販促関連製品などが出品され、開催期間中の3日間の来場者は約31,000名。

印刷物とAR技術の融合を提唱するAR推進グループ(日本フォーム印

刷工業連合会、イクス、サイバネットシステム、メタイオ、印刷之世界社)として共同でブース出展した。

さらに、印刷を新たな側面から見ようとする立場から、AR技術関係にとどまらず日本M & Aセンター、SOMARD、プラン、ソーエイなどが協賛参加した。

日本フォーム印刷工業連合会では、関西フォーム印刷工業会会員の野崎工業(株)、内外カーボンインキ(株)、レスター工業(株)との共同出展。さらに、(株)やまとカーボン社が単独出展された。



グリーンプリンティング工場認定取得奮闘記

4年前の夏でした。「エコプロジェクトのプロジェクトリーダーをやれ」。

平成20年8月、日印産連の地球温暖化対策の自主行動計画への取り組みとして、零細企業でもできることからやる目的で、メンバー3人のエコプロジェクトが活動し始めました。

「給湯室他の蛍光灯をこまめに消す」「事務所の冷房温度28℃」「クールビズの服装」など節電に取り組みました。毎年5月決算時に目標対実績の報告をしながら工場の蛍光灯も間引きました。循環型社会形成の自主参加もリサイクル対応も積極的な参加協力をして来ました。

3年経って平成23年3月11日、東日本大震災を契機に、当社は東京電力の使用量削減15%には該当しない中小零細企業でしたが、ちまちまやらず「契約電力15%削減」の目標を掲げてデマンドシステムを導入したり、社員や家族の協力も得て、13%の削減をしました。目標にはわずか届きませんでしたが、程よい達成感を味わっていたところ、「次の段階だ。グリーンプリンティングをすぐに取得しろ!!」です。

営業の私は当惑しましたが、工場のプロジェクトメンバーと3人で、まずは勉強です。日本フォーム工連の環境委員会の方から『認定取得に向けたスケジュールの進め方』『各種書類の作成方法』など丁寧なアドバイスを頂き、日印産連のGP事務局からは、「書類の準備はどうか」と親切なお電話まで頂戴したり、指示した社内の常務取締役と比較して、格段に温かい皆様の支援と優しいお気持ちに触れ、メンバーは日常業務終了後に、喜んで規定の作成や打ち合わせを重ねることができました。

社外の皆様から、絶大な支援のお蔭をもちまして、気が付いたら4年目にしてGP工場の認定を受けることができました。

一連の取り組みを通じて一番大事だと感じたことは、当社の周りには「協力して下さる沢山の人がいる」ということでした。

また、社内でも一つの目標に向かって、4年も経てばチームは協力し合って進んで行けるように仲間意識が高まり、コミュニケーションを随分深めることができました。大量な文書作成ほか大変

でしたが、今思うと実に感慨深い事です。

そのお陰で、営業製造以外でも通常業務が大変やりやすくなりました。

これからは他社のお役に立って、恩返しをしたい所存です。

株式会社木万屋商会 営業部 大森智志

「グリーンプリンティング工場認定制度」事務局より

グリーンプリンティング工場認定制度(GP工場認定制度)は、社団法人日本印刷産業連合会が平成18年に創設したもので、印刷業界の環境自主基準「印刷サービスグリーン基準」を達成した工場・事業所を、環境経営に積極的な印刷企業として認定する制度です。印刷の各工程ごとに細かく具体的な基準が決められていて、環境管理システムの構築と環境負荷低減の実績(パフォーマンス)が求められます。また、認定に当たっては、GP認定審査員によるエビデンスの確認、現地審査における全項目の確認のほか、学識経験者やマスコミなど業界外委員による客観的判定が行われており、印刷業界独自の信頼性ある制度として、環境省の環境表示ガイドラインやグリーン購入法の手引きにも取り上げられています。現在、全国289工場がGP工場として活躍しています。

なお、GP認定制度にはそのほか、印刷製品に環境ラベルとしてGPマークを表示する制度と、印刷工場で使用する洗浄剤などを認定する制度があります。

日本印刷産業連合会 業務推進部 殖栗 正雄



(株)木万屋工場



GP工場認定式

関東フォーム印刷工業会

平成24年度通常総会を開催

関東フォーム印刷工業会(瀬戸良教会長)は5月24日、目白・椿山荘で「平成24年度通常総会」を開催した。49人の出席(委任状含む)のもと、議長に瀬戸会長を選出して審議を開始。第1号議案「平成23年度事業報告ならびに収支決算報告承認」では、昨年度の活動としてBCP、コーチング、クラウドサービスのほか、パネルディスカッション、ワークショップを含む7回の講演や、イベントへの参加や出展と、充実した内容を報告した。

第2号議案「同24年度事業計画案ならびに収支予算案承認」では、事業計画案として日本フォーム印刷工業連合会や(社)日本印刷産業連合会への参画、これを通じた情報共有化と課題解決への注力をはじめ、支部活動の強化、会員相互の親睦と情報交換の場の確保といった内容の事業計画を説明した。

第3号議案「任期満了にともなう役員改選」では、一部役員の改選を協議。これを含め上程された全3議案はいずれも可決、承認され閉会した。

引き続き同所で懇親会を開催。冒頭、瀬戸会長は「フォーム印刷業界は関東の皆さんが中核を担っている。厳しい状況が続くが、今年度も有益な情報を発信していく。運営にご協力いただきたい」とあいさつ。次いで玉田健治副会長が「私が入社した当時、先輩から『空気以外は何でも印刷できる』と印刷の偉大さを説かれたもの。情級伝達ツールである印刷だが、今や紙にインキを載せるだけが印刷ではない時代だ。近年の情報量の増加は、われわれの活躍すべきフィールドが拡大しているととらえるべき。各位しっかりと勉強して、変身を遂げて欲しい」とエールを送って乾杯を発声した。

平成24年度・新役員

- 会長：瀬戸 良教((株)昇寿堂)
副会長：福田 学(三郷コンピュータ印刷(株))
玉田 健治(トッパン・フォームズ(株))
専務理事：山口 実(フォーム工連専従)
常任理事・東・西・北陸支部長：渡辺 浩次
(共同印刷(株))
常任理事・南・北支部副長：坂下 正巳
(光ビジネスフォーム(株))
常任理事：劔 路幸(日本電算機用品(株))
福田 健蔵(三郷コンピュータ印刷(株))
佐々木慎一(河和田屋印刷(株))
尾崎 修史(トッパン・フォームズ(株))
山本 政徳((株)ビーエフ)
理事・東・西・北陸副支部長：丸田 勝功
(太平洋印刷(株))
理事：岩上 光男(カワセコンピュータサプライ(株))
中之庄幸三(ナカバヤシ(株))
根岸 敬((株)昇寿堂)
三浦 龍男(小林クリエイト(株))
川口 政之(水三島紙工(株))
森 哲雄((株)イセトー)
谷島 健治(水三島紙工(株))
河上 二郎((株)エヌ・ユー・エス)
監事・南・北支部長：浜岡 光雄((株)木万屋商会)
監事：寺山 英夫((株)高速)



北海道フォーム印刷工業会

平成24年総会及び懇親会を開催

北海道フォーム印刷工業会(佐藤泰光会長)は4月26日、札幌グランドホテルに於いて2012年の総会及び懇親会を行いました。

総会・懇親会共に出席会社20社23名で行われました。佐藤会長から各社にフォーム印刷工業会に対する皆様のご協力に御礼を申し上げ、引き続き需要の減少を紙業界の出荷量から検討した報告がありました。震災後の影響はなくなる方向とはいえ、まだ下げ止まりまで行っていない中、各社が一層の企業努力が必要との挨拶をいただきました。

引き続き懇親会が行われ、恒例の自己紹介を含めた各社の近況報告があり、和やかに団結と親睦が計られました。



中部フォーム印刷工業会

平成24年度定期総会・講演会・懇親会を開催

中部フォーム印刷工業会(杉山悟会長)は、5月25日午後3時より、メルパルクNAGOYAで、平成24年度定期総会を開催した。参加者は総会40名、記念講演70名、懇親会60名であった。

総会の司会は熊谷憲泰理事が務めた。

冒頭、挨拶に立った杉山会長は、昨年3月の東日本大震災にふれ、東北フォーム印刷工業会への会員の支援に感謝を表明。また、今後も社会的責任を踏まえた対応、協力を要請した。

その上で日本経済に言及、東日本大震災に加え、円高基調、原油価格の高騰、世界政治の不透明感などにより、平成23年度の財政・経済・輸出は後退を余儀なくされ、「内憂外患というトンネルから抜け出すにはいたっていないのが現実」と厳しい認識を示した。

さらに日本経済の低迷は「国内産業への製品供給に、主たる売上を依存する当業界へも大きな影響を及ぼす結果となっています」。また、「従来製品を中心としたフォーム印刷の市場規模の縮小という流れを止めることは極めて難しい状況」と危機感を表明。このような状況を打破し、“新しい市場創造”のためには、デジタル化の進展を直視し、コンプライアンス、ガバナンス、BCPなどのあらゆる側面での総合的な対応力を備えること、こ

れまで培ってきた技術やノウハウを融合した、顧客への積極的な業務ソリューションの提供が必要と強調した。

そして、「その一つの方向性、あるいは考え方の参考」と前置きして、日本フォーム印刷工業連合会国際委員会の資料「米国レポート」の次の文章を紹介した。

「印刷業者が顧客に代わって高額な資本投下をし、印刷機を回していく時代は終わりつつある。デジタルプリントやワークフローの自動化などにより、印刷は益々情報プロセスの一部と見なされ、顧客はそれがもたらすソリューションを期待するようになってきている。印刷業者は、印刷物を“何部でいくら”という見積を提出するより、顧客の業務にどのように貢献できるか、その効果を語らなければならない」

挨拶の最後に「こういう時代だからこそ、当工業会に期待される役割をあらためて認識し、会員各社様にとって必要とされる会となるよう運営をしていきます」と決意を表明した。

この後、議長に杉山会長を選出して議案審議に入った。上程された4議案はいずれも承認された。

このうち、平成24年度役員変更報告・選任の件は、次の役員が選任された。

平成24年度・新役員

会 長： 杉山 悟(小林クリエイト(株))
副会長： 水谷 春三(富士印刷(株))
理 事： 伊藤 民康(伊藤印刷(株))
熊谷 憲泰((株)イセトー)
伊藤 則男(共同印刷西日本(株))
白尾 浩志(トキワ印刷(株))
内田 聡(トッパン・フォームズ(株))
上田 康二(トッパン・フォームズ(株))
山中 一((株)トヨトモ)
理 事： 三枝 栄一(小林クリエイト(株))
監 事： 加藤 薫(アコーダービジネス・フォーム(株))
監 事： 松尾 富正(小林クリエイト(株))
(敬称略)



総会終了後、午後4時より、記念講演会が開催された。講演会では文学博士・静岡大学名誉教授の小和田哲男氏が「信長・秀吉・家康に学ぶ経営戦略」をテーマに講演した。

講演の中で小和田氏は、「信長にみるリーダーの条件」、「時代を変えた秀吉」、「家康の歴史的役割」について、数々の史実、エピソードを交えて紹介、戦国時代に生きた三英傑をとおして現代に通じる経営戦略のヒントを提供した。

また、記念講演の後、昨年は大震災の影響により中止した懇親会を開催し、記念講演を頂いた小和田先生も参加され、会員相互の情報交換、参加者の懇親を深めました。



関西フォーム印刷工業会

平成24年度定期総会

去る5月24日木曜日、大阪北区堂島ホテルにて「関西フォーム印刷工業会平成24年度定期総会」が開催され、会員、特別会員合わせて約80名が参加しました。

総会では、任期満了に伴う役員の改選が行われ、溝口剛司会長(レスター工業(株))をはじめとする新役員の就任が承認されました。

続いて行われた講演会では、講師として(株)HAYASHIDA-CS総研 代表取締役 柿原まゆみ先生をお招きして、「お客様の心をつかむ第一印象・好感度UP講座」というテーマで、実技を取り入れた参加型の講演が行われ、「初対面でおお客様の心を掴み、信頼を得る自己演出のノウハウ」を伝授していただきました。

その後行われたパーティには、柿原先生も参加され、盛大に催されました。パーティの冒頭、溝

口新会長から「若いだけ取り柄ですが、精一杯がんばります」と力強い決意が述べられると、会場には万雷の拍手が鳴り響きました。

平成24年度・新役員

会 長：溝口 剛司(レスター工業(株))
副会長：玉井 敏晴(東洋紙業(株))
副会長：滝本 正明((株)やまとカーボン社)
会 計：萩原 博樹((株)イセトー)
大阪支部長：平松 敬康(野崎工業(株))
副支部長：川畑 利之(相互ビジネスフォーム(株))
京滋支部長：太野垣裕二(寿フォーム印刷(株))
副支部長：高橋 徹((株)イセトー)
兵庫支部長：嶋戸 昭昌(カワセコンピュータサプライ(株))
副支部長：光富 猛志((株)ロータリービジネス)
理 事：小谷 達雄((株)イセトー)

理事：松田 幸雄(内外カーボンインキ(株)) 理事：山口 忠昭(水三島紙工(株))
 岡田 正明(共同印刷西日本(株)) 大西 英樹(カワセコンピュータサプライ(株))
 浜田 光之(トッパン・フォームズ(株)) 中川 良樹((株)城東ビジネスフォーム)
 入野 康(小林クリエイト(株)) 監事：原田 佳彦((株)トヨシコー)



関西フォーム印刷工業会 大阪支部

4月度・6月度例会を開催

4月25日(水)に行いました「大阪支部4月例会」には、20社(24名)が参加しました。

「日本フォーム印刷工業連合会・関西フォーム印刷工業会」からの報告の後、大阪支部の役員変更についての報告が行われました。

第31回プチ勉強会では株式会社やまとカーボン社 代表取締役 四方 裕様を講師にお迎えし、「AR(拡張現実)の基礎知識と印刷商売への具体例について」というテーマで行われました。目の前で繰り広げられる拡張現実の世界に、参加者全員がとても興味をもって勉強させていただきました。

6月28日に大阪支部例会が、18社21名のご参加で、行なわれました。

日本フォーム印刷工連と関西フォーム印刷工業会の理事会報告のあと、話題の胆管がん騒動に関する各方面からの実態調査については、真摯に対応する旨周知されました。その後、プチ勉強会が行われ、「“drupa 2012”から見る印刷業の変化」と題して、関西フォーム印刷工業会の溝口会長か

らの報告会を行いました。溝口氏は、既に開催されたメーカー各社の「drupa報告会」に複数参加され、各社各様の中から優れた報告書を紹介すると共に、自身の観点から臨場感のあるdrupaとこれからの印刷業について関係性、ネットワーク型に発展する今後のフォーム印刷の変化、世界的な印刷のアジア地域の位置付けなどについて述べた。

7月5日、関西フォーム印刷工業会大阪支部恒例のビアパーティーが、梅田のスーパードライ梅田店で、会員企業様・特別会員企業様合わせて28社65名が参加され、元気に語り合いました。



西中国フォーム印刷工業会

平成24年度総会を開催

西中国フォーム印刷工業会では、5月25日午後6時より、メルパルク広島において平成24年度総会を開催した。

総会冒頭に灘会長から「会員各位においてはご多忙の中、本総会に出席いただき有難うございます。今後とも、会員相互による切磋琢磨とさらな

る人間関係の育みにより、西中国フォーム印刷工業会の運営・発展に尽くしていきたいと考えていますので、みなさまのご協力をよろしくお願いしたい」と挨拶された。

総会は正会員9社(出席14名、委任状3社)出席のもと、議長に灘会長を指名して議事に入り、各議案について審議し承認された。

- (1) 平成23年度事業報告・決算報告の件
事務局より報告が行われ、決算報告に対して監事の吉岡康士氏(大成印刷株)から監査報告が行われ、全員がこれを議決し承認した。
- (2) 平成24年度事業計画(案)・収支予算(案)承認の件
同様に事務局から内容の説明が行われ、全員がこれを議決し承認した。
- (3) 役員改選の件
議長が内容の説明を行ない、全員がこれを議決し承認した。

九州フォーム印刷工業会

平成24年度定期総会及び研修会を開催

九州フォーム印刷工業会(和田秀一郎会長)は、5月25日(金)に鹿児島の城山観光ホテルにて、平成24年度定期総会及び研修会を開催した。

定期総会後に開催した研修会には23名が参加し、明治維新とリーダーシップ「郷中教育を今に活かす」と題し、鹿児島市「維新ふるさと館」館長の福田賢治氏を講師に招き、明治維新における薩摩の役割、明治維新を主導した偉人のリーダーシップ、薩摩武士の精神的支柱となった「郷中教育」を基盤

とした薩摩の人材育成に関して研修会を行った。

研修会後、18社22名が参加して懇親会を行い、鹿児島の黒豚を味わいながら情報交換し、楽しい懇親のひとときを過ごした。また、翌日は島津ゴルフ倶楽部にて、定期総会後初めての親睦ゴルフコンペを開催し、好プレー・珍プレーの出る中、参加者の皆さんは悪戦苦闘しながらも楽しい会話を交わし親睦が深まった一日でした。



国際委員会

■北米印刷事情レポート(2012年4月～6月)

「印刷業界の最悪の嵐」とその余波を乗り切る

グラフィックコミュニケーション業界は、過去10年間、かつてない圧力にさらされてきた。その素地が作られたのは1990年代で、金融業界による積極的な低利の融資を追い風に、商業印刷事業の統合が全国的に進められた。2000年代初頭からは、資金の貸手や株主に期待させたシナジー効果が実現しなかったため、統合した印刷事業の多くが解体し始めた。

買収主である企業が多額の負債を抱えて相次いで破綻すると、それらに統合された企業は破産保護の申請や清算を余儀なくされた。その結果、買収された企業は、閉鎖、清算もしくは売却されるか、元の所有者に戻るか、のいずれかの道を辿るものが少なくなく、多くの企業は長期的に存続できなかった。

こうして素地が整った後に、印刷業界の史上最悪の嵐となる最初の雲が形成された。同時に、新たな電子媒体が紙媒体と競合し始め、トナーやインクジェットを使用したデジタル印刷システムが従来のオフセット印刷と競合した。こうしたトレンドが加速し、印刷業界の劇的な変容が不可避となるに伴い、景気は大きく後退し、史上最悪の嵐は勢力を強めた。

あらゆる方面に情け容赦のない圧力がかかる

印刷物の購入が減少し、主要顧客が急増し続けるプリントマネージメント会社のサービスを利用し始めたことから、従来の印刷事業の売上高は30%も減少した。設備過剰に加えて、価格に関係なく売上にさえつながれば状況が改善するとの考え方が主因となり、値下げ圧力が業界全体の問題になった。景気低迷を背景にして顧客のニーズも変化した。デジタル印刷プロセスが、短期的なオンデマンド印刷とダイレクトメール製品の有力な選択肢になった。非印刷媒体が、顧客とそのクライアントに広告の新たな選択肢を提供した。

スマートフォン、タブレット端末および電子書籍リーダーの爆発的成長によって変容は続き、強

いものが生き残って、自然淘汰が行われていく「適者生存」の環境が作り出されたと見られる。このため、伝統的印刷会社はすべて、戦略的思考でこの史上最悪の嵐を乗り越え、生き残るための明確な道筋を見つけることが求められた。「すなわち、SOSを発信して船を売却するか、さもなければ手をこまねいて沈没するのを見守るか」である。

過去数年でおびただしい数の企業が倒産しており、売上高の減少、債務、拙劣な経営および経済的要因を克服できない企業もあることから、このトレンドは間違いなく当面続くであろう。現実から目をそらす経営者や根拠のない楽観主義で大局を把握できない経営者は明らかに脆弱であり、生き残ることは難しい。

二者択一

この史上最悪の嵐は、業界のすべての企業にある単純な決断、すなわち買収するか・されるか、を迫る環境を作り出した。買収を行なうのは、「最強の会社が最後に生き残る」という考えを持ち、売上拡大や顧客基盤に提供するサービス多角化のためのビジョンや戦略的計画および資金を持つ企業である。企業買収を伴わない成長は、もはや選択肢にはない。

買収されるのは、債務の元利払いや事業の継続をキャッシュフローでまかなえない状態にまで業績が下降した企業である。闘う意欲や能力を失った企業や、資産を早く換金すれば高い価値が得られると認識した企業も、被買収企業となるかも知れない。資産価値を超える債務を抱えた企業にとって、状況の好転を待つことは現実を拒否するに等しい。被買収企業は、出口戦略の策定や実行を先送りするほど、撤退はより複雑化し、大きな代償と痛みを伴うことになるだろう。

業界での経験が豊かで有能なアドバイザーの助けを得れば、買収主となる企業は、持続可能な事業運営を構築するため、効率的で実りある戦略の策定と実行が可能となる。これは、被買収企業の固定資産の取得や「タックイン」と呼ばれる取引を

通じた被買収企業の売上もしくはその資産の一部の取得のいずれかで行なうことができる。

一方、被買収企業は、適切な出口戦略の実行や、数世代にわたって構築されてきた組織の資産価値の最大化を実現することである。周到に計画された出口戦略は、完全に鎮静するまでに長い時間を要する史上最悪の嵐を避ける最も安全な港となろう。

(筆者：トーマス・J・ウィリアムズ氏は、投資銀行業務のアドバイザー・サービス、資産評価、金融アドバイザーおよび経営コンサルティングサービスを提供している)

労働力人口の減少による失業率の改善；

印刷業界の雇用縮小；中小企業楽観度の後退

米国の失業率は2月の8.3%から3月は8.2%へと改善したが、労働統計局の専門家は雇用情勢が「ほとんど変わっていない」と述べ、楽観視する向きに水を差した。実際の失業率は、8.27%から8.19%への0.08%ポイントの変化であった。依然として問題となっているのは、労働力の減少である。労働力人口は16万4,000人減少し、就業者数は3万1,000人減少した。これらのデータは家計調査によるもので、零細企業と自営業の労働者が含まれている。この家計調査は失業率の算出に用いられている。

雇用者数が12万人増加しマスコミの注目の的となっているが、この増加は予想の1/2に過ぎず、過去数カ月一貫して20万人を超える増加が続いたことを考慮すると、期待を大きく裏切る結果だと受け止められた。雇用者数にはプラス・マイナス13万人前後の誤差の範囲があるため、1万人の減少

または25万人の増加ということもあり得る。実際の数字は数カ月後まで分からないことから、長期的なトレンドを見た方が適切である。2011年3月以来、労働力人口は130万人増加し、就業者数はおよそ230万人増加した。非労働力人口も約230万人増加した。2012年3月だけを見ても、非労働力人口は2月から33万3,000人増加しており、良い兆候とは言えない。分かっているのは、失業率改善のペースは遅く、しばしば好ましくない理由で改善しているということである。

印刷業界の雇用はどうだろうか。景気後退が始まって以来、印刷業界の雇用者数は52カ月のうち49カ月で減少し、この期間全体で15万8,800人減少した。1カ月当たり約3,000人減少したことになる。2012年3月には前月比で2,800人減少しており、3月の印刷物出荷にとって良くない兆候である。2011年3月の出荷は74億ドル前後だったが、我々のモデルによれば、2012年3月の出荷は71億ドルになると見込まれる。我々は、横這いになることを期待している。

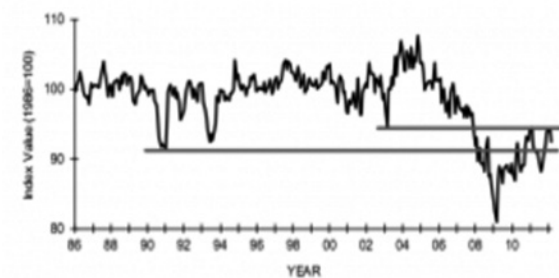
2月のデータによればグラフィックデザインと広告代理店の雇用者数は依然、増加している(3月のデータは来月発表される予定)。広告代理店の雇用者数は、今年末までに印刷業界の雇用者数を上回ることが見込まれる。

経済で重要な役割を果たしているのが中小企業の状況である。先週、我々は景気回復指標の一つである経営者の所得を取り上げたが、インフレ調整後の同指標は、まだ景気後退入り当時の水準を下回っていた。全米独立事業者協会(NFIB)が実

表1

印刷業界の従業員数 (1,000人)	2011年2月	2012年2月	増減率	2011年3月	2012年3月	増減率
印刷業全体	475.9	457.9	-3.8%	475.7	455.1	-4.3%
生産部門	332.1	316.0	-4.8%	332.2	313.3	-5.7%
生産部門以外	143.8	141.9	-1.3%	143.5	141.8	-1.2%
出版	751.6	740.8	-1.4%	749.6	740.2	-1.3%
定期刊行物	114.0	111.6	-2.1%	113.9		
新聞	245.7	229.7	-6.5%	244.5		
新聞以外の出版	505.9	511.1	1.0%	505.1		
グラフィックデザイン	59.2	60.8	2.7%	60.2		
広告代理店	413.6	431.6	4.4%	419.2		
広告代理店 + デザイン	472.8	492.4	4.1%	479.4		
ダイレクトメール広告	51.4	49.1	-4.5%	50.9		

図 1



縦軸：指数値（1986年＝100）横軸：年

施した中小企業月次調査では、6カ月連続して中小企業楽観度指数が上昇した後、一歩後退している。図1はそのグラフである。

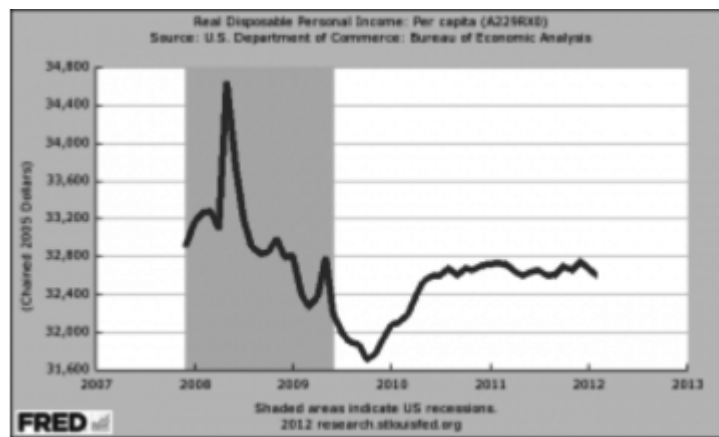
グラフには2本の線を引いたが、長い方の線は1990年代初頭の景気後退の底を示しているが、これと比較すると、ほとんどの過去の標準に比べてそれほど悪い状態ではないことが分かる。その上にある短い方の線は、2003年初めの中小企業の減速の底を示している。

最近、中小企業楽観度指数が後者の水準に達した。ただし、少なくとも今のところ同指数は先の2本の直線のレンジ内で推移している模様である。

GDPよりも注視する必要があると我々が考えている景気指数は、1人当たり実質可処分所得である。実質とはインフレ調整済み、可処分とは税引き後の所得、1人当たりとは国民1人当たりという意味である。グラフから、別の方向から見た経済の状態がはっきり見て取れる（図2）。

図 2

1人当たり実質可処分所得（A229RX0）
出所：米商務省経済統計局



縦軸：（2005年価格に基づく連鎖方式、ドル）
横軸：年
灰色の部分は景気後退期

Drupa2012ニュース：コダックとゼロックス

Drupa2012の初日に、ニューヨーク州ロチェスターを本拠地とする業界最大手の2社、コダックとゼロックスの記者会見が開かれた。今回drupaに出展した2社の状況は大きく異なっている。コダックが米国連邦破産法によって再建中である一方、ゼロックスの業績は順調で全世界にサービス事業を拡大している。

コダックは新製品やアップデートした製品を新たに10種類紹介し、極めて前向きの内容で大勢の訪問者で賑わっていた。記者会見の中心は、同社の現状についての説明であった。同社のベレスCEOのメッセージは、コダックは順調に再建を進めており、受注も増加し2013年に経営再建を完了する計画に沿って順調に進展している。これには、今年後半に実施される戦略上重要ではない知的財産権の入札の準備が含まれている。

一方、ゼロックスは全く異なる状況であった。個人的見解だが、同社はサービス事業の構築に注力する一方で、グラフィックアート市場における方向を見失っているように感じた。ゼロックスの台頭の立役者となった人材の多くが退社し、グラフィックアートを指揮する人材が不足していると思う。“Drupa 2012”におけるゼロックスの展示内容は実に期待外れで、特筆すべきものはほとんどなかった。最大の発表はiGen 150 Pressで、市場のこの分野におけるゼロックスのリーダーシップを維持する一助となるとみられる。ゼロックスと競合する企業メーカーは無数にあることから、こ

の水準で十分なことを祈るばかりである。

他社のHP Indigoシリーズでは7500デジタル印刷機より速度を向上させた7600デジタル印刷機が発売され、またNexPressの最新機種はiGen 150をはるかに上回る機能を備え、画像サイズも大きい。コニカミノルタのbizhub PRESS 1100も、iGenと競合する市場に参入する。さらに、より高性能で大きな画像サイズと高品質を求める場合は、Xeikonを忘れてはならない。

もう一つゼロックスから「新たに」発表されたのは、CiPress 325インクジェット印刷機であった。スピードを落として解像度600×600 dpiを実現した以外はCiPress 500と同じ様に見えるため、全く新しい機種とは言えない。プリント現場では、解

像度を落として速度を上げることにより、CiPress 325をCiPress 500にアップグレードすることも可能となっている。

Landaのような意欲的な新興企業が新しい方向に多くの製品を投入できている中で、ゼロックスのような大手企業が、本当の意味での新機種発表をほとんど行なわなかったのは、実に意外である。

ゼロックスに対する筆者の評価が間違っていれば良いと思うのだが、多くの同社スタッフと話し合った感触ではそうではないようだ。ゼロックスが市場の主要な牽引役の地位を維持できるよう、新たに就任したジェフ・ジェイコブソン氏が導いてくれることを切望する。

（アンドリュー・トリビュー）

■印刷産業と環境『印刷産業における環境関連法規集（2012年版）』

製作・編集 社団法人日本印刷産業連合会／環境委員会／環境保全対策研究会

（社）日本印刷産業連合会では、環境委員会のもと環境保全対策研究会が中心となり、印刷産業に係わる環境関連法への対応策を検討しております。最近の数多くの法改正の状況等をふまえ、平成18年10月発行の『印刷産業における環境関連法規集（2006年版）』を見直し、『印刷産業における環境関連法規（2012年版）』として発行しました。

◆平成18年度版発行以降に改正された法 ➡法改正のポイントを解説！

◆環境法令逆引き表を作成 ➡保有設備や作業内容から簡単にたどりつけます。

施設や設備等を導入する際のガイドとして活用ください

【目次】

I 環境関連法規集の概要

- （1）掲載法規の体系
- （2）各法における規制対象
- （3）主な環境関連法改正の内容
- （4）法令逆引き表

II 環境関連法規

- （1）排出等の規制、公害防止関連の法律
- （2）廃棄物、リサイクル、循環型社会形成に関する法律



（3）地球環境、省エネルギー、化学物質に関する法律

（4）環境情報、環境教育に関する法律

Ⅲ その他の関連法規

（1）工場立地に関する法律

（2）防災、労働安全、その他に関する法律

巻末資料

平成24年5月発行 A4判 本文142頁

会員・賛助会員 2,000円（消費税込、送料別途実費）

※日印産連会員10団体傘下の会員企業及び日印産連賛助会員の企業・団体

一般 4,000円（消費税込、送料別途実費）

■ジョー・ウェブ博士 リチャード・ロマノ 共著 「未来を破壊する Disrupting the Future」

一昨年来米で出版された書籍「Disrupting the Future—Uncommon Wisdom for Navigating Print's Challenging Marketplace」の翻訳本「未来を破壊する Disrupting the Future—新しい印刷市場の進路を示す『新しい常識』」を発刊。米国で出版された原本は、ジョー・ウェブ博士とリチャード・ロマノ氏による共著。ウェブ博士はグラフィックアーツ業界では最も知られているコンサルタントで、ロマノ氏はグラフィックコミュニケーション技術やメディアのトレンドを専門とする著作家であり記者。

この2人から繰り出される内容からは、アメリカの印刷業も日本の印刷業も市場の厳しさにさいなまれ、業態変革の必要性に迫られているという同じような状況下にある（発刊された2010年当時だけでもないが）ことが感じられる。そして、印刷業界をとりまく現状と印刷業界に対する厳しい指摘、印刷会社の活路はどこにあるのかが展望されている。

例えば、「印刷会社も『印刷物の価値』を知らなかった。彼らが知っていたのは請求額で、他のメディアの代わりに選ばれた理由ではなかった。この状況は現在も続いている」と現状を述べ、「印刷物の価値について講義を受ける必要がある人がいるとすれば、それは不幸なことではあるが、多くの印刷会社のオーナーや経営幹部の人たちである。……今利用可能なコミュニケーション方法の幅広い選択肢があることや、それらのメリットに関する知識や経験が不足している」と指摘する。

印刷業界への厳しい指摘だけではなく、後半では「第3章：変化するメディアミックス」「第4章：新しい印刷ビジネスを作るために必要なブロック（要件）」など、これから何をみつめ、何を選択し、何を実行していくべきなのかについても解説している。

メディアや技術などが急速に増殖し、メディアの爆発を「メディアの特異点」と呼べるかもしれないという2人の視点や、本書を通して終始語られている印刷会社に必要な要素（新しいメディアに



通じていることなど）などを見るにつけ、社会そのものがスピード化しているが、印刷業も同様にあるいはより倍速化された速さでのビジネスが強いられていることが実感としてわいてくる。

これからの印刷会社は、印刷ビジネスに焦点をあて、コミュニケーション戦略の断片ではなく、全体を重視する姿勢が必要であり、2015年にむけて成功する印刷会社は、「コミュニケーションロジスティックスの制作やコーディネーション、実施、測定そして管理を行うハブ（車輪の中心）であること」を挙げている。

（月刊ブリテックステージ7月号「今月の本」より）

「未来を破壊する Disrupting the Future」

著者：ジョー・ウェブ博士／リチャード・ロマノ

翻訳：山下 潤一郎

企画・監修：山口 実

体裁：A 5 版140頁

価格：1,890円（税込）

発行：有限会社エー・エム・コンサルタント

発売：株式会社アスラン書房

※ご購入は「日本フォーム印刷工業連合会ホームページ」及び「楽天販売サイト」からお求め頂けます。



21世紀の情報記録をサポートします。

三菱情報記録用紙

三菱 **NCR紙** 三菱 **IJフォーム用紙** DFカラーM・G
ダイヤフォーム ダイヤメールシリーズ OCR用紙 感熱紙

三菱製紙株式会社

三菱製紙販売株式会社

本 店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎ 03 (3566) 2341 大 阪 支 店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎ 06 (6271) 2271	洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 ☎ 03 (3213) 3732 大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎ 06 (6271) 4455	名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22名古屋ダイヤビル ☎ 052 (563) 7561 東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎ 022 (295) 7710 九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎ 092 (771) 1531
---	--	---



NPiフォーム *NEXT-IJ*

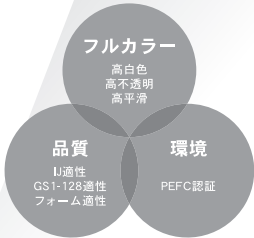
次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS 事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性（耐水性、高発色性）を付与し、新たにラインアップいたしました。

■NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/mi)	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※尚、本製品は受注生産となります。



日本製紙株式会社

印刷・情報用紙営業本部 情報用紙部
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 Tel. (03) 6665-1042